

所報



「総合的な学習の時間」の実践に向けて — 「テーマ（単元）」づくりは誰が作るべきか —

平成12年11月

上智大学教授 加藤 幸次

やはり「総合的な学習の時間」には、「子どもありき」という原則で臨むべきである。教科指導以上に、総合的な学習では子どもが学習活動の「主人公」であるべきだからである。

テーマ設定に関して二つの在り方がある。一つは、子どもたちが「テーマ（単元）」を設定していく場合である。もちろん、子どもたち自身の活動の中から学習したいテーマが決まってくるのが望ましい。

例えば、学級の子どもの父親が交通事故で亡くなり、学級みんなで葬儀に参加したとしよう。

子どもたちの中から「一体葬式ってどうしてするのか」「お経の意味が知りたい」「今後家族はどうなっていくの」「一人親の家庭への援助にはどんなものがあるのか」などといった関心が湧いてくるであろう。こうした関心を生かし、例えば、「葬式について」「一人親の家庭への支援」についてといったテーマが決められていくのである。

他の一つは、教師たちが「テーマ」を設定していく場合である。教師たちが子どもたちの発達段階や関心を考慮してテーマを決める場合である。こうした在り方も、

また大切である。総合的学習で学んでみたい「テーマ」が子どもたちから常に出てくるわけではない。教師の方で、このテーマなくして子どもたちの「願いや思い」にかなっているにちがいないとして、テーマを設定する場合である。

教師は、学校や地域で活用できる素材を考慮するであろう。学校や地域は、子どもたちの生活の舞台であるからである。「秋祭り」「地域の神社やお寺」「地域の芸能」などといったテーマを考えるであろう。他方、社会や大人の「願いや思い」を反映させて、いわゆる現代的課題からテーマを選んでくることもするであろう。教師は、「川の流る」「ごみのゆくえ」「麻薬」「コンピュータと現代社会」「国際連合の働き」などといったテーマを子どもたちに提案するであろう。

総合的学習にとって、どんな「テーマ」をつくって学習活動を計画するかという問題はきわめて重要である。いや、すべてに先立つ重要な問題である。子どもだけがテーマづくりをする人物ではない。教師もまたテーマを提案する人物なのである。

もくじ

- 巻頭言 P. 1
- 研究の紹介 P. 2, P. 3
- 研究の紹介・研究発表大会のお礼 P. 4

- 図書資料等紹介・教育用語解説 P. 5
- 教育実践のアイデア P. 6, P. 7
- 教育センターひろば P. 8

学習指導

子どもの学びを育む授業づくりを目指して(Ⅰ)

— 詳細な授業観察と授業分析を通して —

教育センター主任指導主事 森下 幸子
主任指導主事 尾形 慎治
指導主事 藤村 和彦

毎日の授業の中で、様々な姿を見せる子どもたち、一体子どもは授業の中でどんな学びを営んでいるのでしょうか。子どものあらゆる姿からその内面にせまることで、子どもの学びがどのように営まれているのかを探ってみました。

1 子どもの学習に影響を与える要素と四つの視点

子どもの学びを探るためにはまず、子どもの一つ一つの言動、表情、態度について、それらがどのような原因でなされたかを詳細に分析することが必要であると考えました。そこで、子どもの一つ一つの言動、表情、態度について、影響を与えるものとして考えられる、教師、子ども、教材、環境の四つの視点からの様々な要素のうち、どの要素に影響を受けているかを探りました。すると、子どもの一つ一つの言動、表情、態度には、それぞれ子どもなりの意味があることに気付きました。

視 点	要 素
教 師	発問、指示、表情、行動、態度 など
子 ども	発言、つぶやき、表情、行動、態度 など
教 材	内容、教具、教科書、資料 など
環 境	教室環境の構成、時間、視聴覚機器、雰囲気 など

2 子どもの内面を読み取る工夫

子どもの学びは内的な営みであり、それを読み取るためには、推測していくしかありません。したがって、できる限り客観的な資料を得ることが必要になってきます。本研究では、録画や録音の他、次のような方法で資料の収集を試みました。

- ・ 授業中の子どもの立場になって授業に参加する
 参与観察
- ・ 「心のつぶやき」欄を設けたワークシート
- ・ 授業後の教師の簡単な振り返りメモ
- ・ 授業を客観的に振り返る「○○になって見た授業中の私」と題した作文 など

3 「文脈」と「出来事」

授業の進行とともに子どもの学びに影響を与える

様々な要素の内容は、絶えず変化しています。子どもは、それらの変化に応じて自分なりに意味付け関連付けながら、自分なりの思考の流れを形成していきます。また、教師も同様に、授業中の様々な変化に応じて指導展開を変えていこうとする教師自身の思考の流れを形成していきます。このような一連の思考の流れを本研究では、「文脈」とよぶことにしました。したがって、授業中には、子どもの学びの文脈と教師の指導の文脈があり、それらが、お互いに影響し合っていると考えられます。その際、予め教師の予想や計画していた指導の文脈にはないことがら起こることがしばしばあります。そのようなことがらを本研究では、「出来事」と呼ぶことにしました。この出来事を取り上げ、次の三つの視点で分析することで、子どもの学びに一層深く迫ることができると考えました。

<分析の視点>

- 1 教師は子どもの文脈をどう読み取って指導の文脈を生成しているか。そこに影響を与えている要因は何か。
- 2 子どもたちはそれぞれ出来事をどう意味付けているか。そこに影響している要因は何か。
- 3 教師や他の子どもが生成した新たな文脈は、個々の子どもの学びの文脈にどのような意味があったか。

4 子どもの学びを育む授業づくりの視点

以上のような分析を通して、子どもは様々な要素と影響し合いながら、自分なりの文脈を生成し、教師はそれらとともに自分自身の文脈を読み取りながら、子どもと共に新たな文脈を生成しつつ、授業が創造されていく様子が見て取れたように思います。

本研究での分析を通して、子どもの学びを育む授業づくりの具体化に向けた基本的な方向性として、次の三つの視点にまとめました。

視点1 子どもを見取り、読み取る

- 内面を読み取るようとする意識を常に持つ
- 子どもの言動、表情、態度を見取る
- 様々な要素との関係性から読み取る
- 子どもの内面を把握できる資料を工夫する

視点2 文脈をつかみ、書き換える

- 指導の文脈と学びの文脈のずれを敏感に感じ取る
- その場に応じて柔軟に指導の文脈を書き換える

視点3 教材研究を深め、生かす

- 育てたい見方や考え方などについて理解する
- 本時の学習内容の本質にもとづいて学習を展開する

※詳細は、教育センター研究紀要第20号をご覧ください。

生徒指導

学級の機能、凝集性、教師の指導性に関する調査研究

教育センター主任指導主事（事）主任 砂原 文男
 主任指導主事（事）主任 木村 正信
 主任指導主事 名和原恵理
 指導主事 首藤 龍磨

学級の機能を有効にはたらかせ、学級経営を充実させていくためには、何が求められているのでしょうか。本研究では、学級の機能について児童生徒及び教師を対象に意識調査を行い、集団の凝集性（学級の魅力）及び教師の指導性（かかわり方）と学級の機能との関係を探ってみました。

ここでは、調査の結果の内、学級の機能と凝集性との関係について概略を紹介します。

1 学級の機能

学級集団は、その果たしている役割から、学習集団、自治的集団、生活集団といった三つの側面をもっています。この三つの側面からとらえたとき、学級の機能には次の五つがあると本研究ではとらえました。

- ①学習意欲を高める機能……………主として「学習集団」
- ②協力性を高める機能
- ③他者との共同生活を学ぶ機能 } ……主として「自治的集団」
- ④規範意識を高める機能
- ⑤情緒を安定させる機能……………主として「生活集団」

2 集団の凝集性

集団の凝集性とは、メンバーを集団の中に引きつけ、まとまりを強める力のことです。本研究では次の三つの視点から凝集性をとらえました。

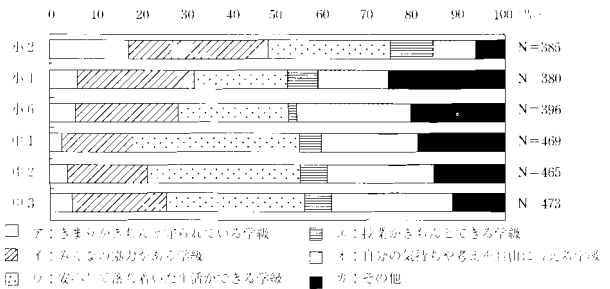
- ①仲間の魅力 ②教師の魅力 ③学級の日標の魅力

3 調査結果の分析・考察

(1) 子どもの好きな学級像

子どもは、どのような機能を学級に求めているのでしょうか。

次のグラフは、「あなたの好きな学級は、どんな学級ですか」という設問に対する調査結果の集計です。



規範性のある学級や授業がきちんとできる学級よりも自分が安心して生活できる学級、自分の気持ちを自由に出せる学級を強く望んでいることがわかります。

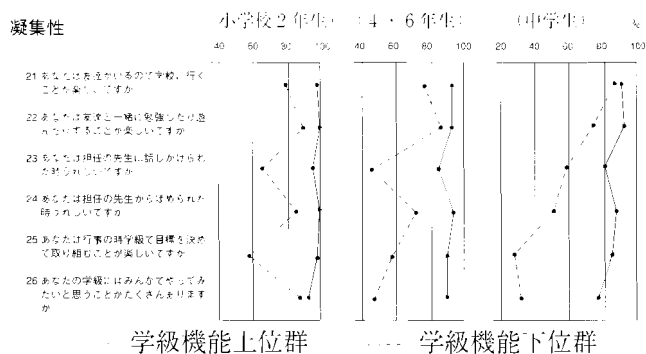
(2) 学級の魅力と学級の機能に関する子どもの行動との関係

調査対象学級を、学級機能上位群と学級機能下位群に分け、集団の持つ魅力が学級の機能にどのように関係をしているかを表しているのが下のグラフです。

小学生では、「23 先生に話しかけられたときに嬉しいと感じるかどうか」という担任の親近感に基づく魅力が学級の機能に大きく関係していることがわかります。

小学4・6年生は、小学2年生と比べると「目標の持つ魅力（25、26）」が学級の機能に大きく影響するようになっていきます。

中学生では、「仲間の持つ魅力（21、22）」、「教師の持つ魅力（23、24）」、「目標の持つ魅力（25、26）」の順に、学級の機能に関する子どもの行動に与える影響が大きくなっています。



注) グラフの実線と点線の開きが大きいほど、その項目が学級の機能に大きく関係していることを表しています。

※詳細は、教育センター研究紀要第20号をご覧ください。

教育センターが取り組んでいる研究の紹介

こんな問題を探究しています

学習指導

「子どもの学びを育む授業づくりをめざして(Ⅱ)」

担当：三原・尾形・藤村

個性豊かな子どもたちの学びを成立させるためには、教師は、刻々と変化する教室の状況をつかみ、瞬時に次の手だてを判断する力量を高める必要があります。では、その力量はどうやって高めていけばよいのでしょうか？

総合的な学習の時間の試行が始まっています。この学習によって、実際にはどのような学力が育まれていくのでしょうか。また、子どもはどのように「知」を獲得していくのでしょうか。そして、教師は、それをどう見取り、支援していったらよいのでしょうか？

学習指導

「総合的な学習の『知』の見取りに関する研究」

—支援の在り方を求めて—

担当：木村・森下・前山

生徒指導

「学級経営の充実に関する研究(Ⅱ)」

担当：砂原・名和原・首藤

子どもと教師及び子ども同士の日常的なかかわり合いを通して、子どもは成長し学級も成長していきます。では、担任のどのようなかかわり方が子どもの成長や学級の成長にどのように関係しているのでしょうか？

インターネットを教育で活用していくためには、①学習指導の在り方、②教職員の研修態勢、③情報発信の在り方、④教育情報データベースの構築の四つの課題をどのように具体化していけばよいのでしょうか？

教育課題

「小・中学校におけるインターネットの活用に関する研究(Ⅱ)」

担当：板敷・松浦・住吉

学校経営

「特色ある学校づくりに向けた校長のリーダーシップに関する研究 —協働態勢づくり—に視点をあてて—

担当：吉竹・永岡

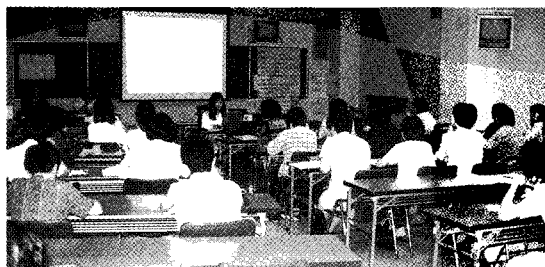
特色ある学校づくりに向けては、学校経営にかかわる諸条件を充実・改善する必要があります。校内の協働態勢の確立もその一つです。校内の協働体制づくりや協働意識の高揚に向けて校長のリーダーシップをどのように発揮していけばよいのでしょうか？

教育調査(指定都市第13次共同研究)

「子どもたちの意識を通して教育改革の道標を探る—はたして子どもたちは変わったのか—」

担当：井坂

平成12年度 第7回広島市教育センター教育研究発表大会



学びの立場から、授業を見直していくことの大切さをあらためて考えました」「パソコン、VTR等を使ったわかりやすい発表でした」等の感想をいただきました。

後半の講演会では、野球評論家の山本・義さんに、「人を育てる」と題して、自己実現のために目標をもって挑み続けることの大切さ、指導者としての在り方について、ご自身の体験を通して語っていただき、「熱いもの」「勢い」を感じさせていただきました。

今回の研究発表大会では、初めての試みとして、メダカやケナフの苗、ツタンカーメン王のエンドウ豆といった教材を配布し、参加者には大好評でした。多数のご参加をいただき、本当にありがとうございました。

8月3日(木)、245名の先生方の参加を得て、第7回教育センター教育研究発表大会を開催しました。

本大会では、「子どもの学びを育む教育の創造」をテーマに、17の分科会で研究発表が行われました。それぞれの分科会では、子どもたちの思いや興味・関心を大切に、生きてはたらく力となる学びを育むための学習活動や教師の支援の在り方について、発表をもとに活発な質疑や協議が行われました。参加者からは「子どもの

教育関係資料の紹介

教育センターでは、各学校等における教育活動等を支援するため、教育情報を計画的に収集、整備しております。平成12年度に購入した教育図書やビデオ教材の一部を紹介します。

BOOKS		
教育一般	授業づくりをささげる	石井 順治 著
教育学	教育学を学ぶ	柴田 義松 編著
学習指導法	シリーズ授業 実践の批評と創造 第1・2・5・7・8・9・別巻	稲垣 忠彦 著
国語科教育	「伝え合う力」とは何かーある国語教室からの発信ー	河合 隼雄 著
社会科教育	絵と写真で学ぶ日本の歴史 1～4	花田 修 著
算数科教育	満載 算数的活動	古川 清行 他著
理科教育	子どもの学びにそくした理科授業のデザイン	全国算数授業研究会 編
生活科教育	生活科 自然とともに学ぶ1年生	森本 信也 著
音楽科教育	音楽教育学研究 1～3	植竹 紀行 著
図画工作科教育	だれでもできる中学美術鑑賞の授業	日本音楽教育学会 編
技術・家庭科教育	中学校技術・家庭科 技術分野題材集	神占 脩 著
体育科教育	体育授業づくりへの挑戦①～⑧	中村 祐治 編著
外国語科教育	総合的な学習 はじめての小学校英語	山本 眞美 編著
道徳教育	小学校 新しい道徳指導の展開 1～6年	波邊 寛治 編著
特別活動	中学校国際理解教育の活動プラン	尾田 幸雄 編著
障害児教育	全面的な発達をめざす障害児学級の学習指導計画案集	高階 玲治 編著
幼稚園教育	新しい教育課程と保育の展開	江口 季好 著
生徒指導	ソーシャルスキル教育で子どもが変わる	小田 豊 他 編著
教育工学	情報教育の方法と実践 小学校編・中学校編	小林 正幸 編著
社会教育	生涯学習・社会教育行政必携 平成12年度版	赤堀 侃司 編著
		生涯学習・社会教育行政 研究会 編

VOLUME	
福祉・ボランティア関係	『体験から学ぶ心のふれあい』 『学びあい・支え合いー生涯学習とボランティアー』 『ボランティアガイドシリーズ 高齢者編』 『ボランティアガイドシリーズ 障害者編』

この他にも教育雑誌、各学校・幼稚園の実践研究物等も多数収集しております。ぜひ、ご活用ください。

「評価」と「評定」ってどう違うの？

「評価」という言葉を普段我々は、「自己評価する」とか「相対評価する」などという言い方で使ったり、「評定」という言葉は、教科の成績を数字で表すときに「5段階評定」などという言い方で使ったりしています。この二つの言葉は、どう違うのでしょうか。『新学校用語辞典』（ぎょうせい）には、それぞれ次のように記述してあります。

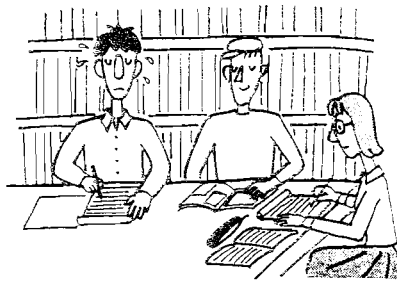
・「教育評価は、教育に関連する種々の活動を、活動が目的とする目標をいかに実現しえたか、という観点から査定し、その効果を判断し、教育の改善・決定を図ろうとするはたらきをいう。」

・「教育実践における評定とは、児童・生徒の学習成果（作品、レポート）、行動や性格、総合的学力などについて、観察や面接を含めたデータを基に、特定のチェックリストにより、分類・段階づけを行うことをいう。」

また、『学習指導用語辞典』（教育出版）では、評価と評定を次のように区別しています。

「評価は教育目標を追求する活動の部分であり、目標達成へ向かっての行動、調整、行動と繰り返し進めていく過程であるのに対し、評定は値うちをはっきりさせる意であるから、すでに定まっている基準や尺度に照らし、価値判定することである。したがって目標に向かって調整する機能を持っていない。」

このほかにも、いろいろなお説がありますが、評価は、たえず実践活動にフィードバックしたり指導と学習のあり方や方向を調整したりするもので、評定は、ある時点で子どもの学習の状態を明らかにするものだと解釈することができます。



取り入れてみましょう

総合的な学習の時間 子どもの自己評価力を高めることをねらうポ ートフォリオを活用した「会議 (conference)」

担当：森下

「試合で勝つために、それまでの何十回となくした負けの試合から学ばなければ、一流とは言えない。」これは、あるプロのスポーツ選手の言葉ですが、自ら学び自ら考える力の育成を目指す総合的な学習においても、子どもたちが自分で自分の活動を振り返って、自分にとっての学習活動の意味を考えていくことが大切です。それが、次の学習づくりや生涯学習の基礎となる力量を育てることにつながっていくからです。

そこで、ポートフォリオを活用して、学習を振り返り自己評価力を高めるために、教師と子どもとの小さな「会議 (conference)」を取り入れてみましょう。

ポートフォリオは、『子どもの学習の過程及び成果に関する情報・資料が、長期にわたり目的計画的に蓄積された集積物』のことです。

小さな「会議」は、これらの子どもの作品や振り返りカード、作文等学習中に記録され、つくられたもの

をもとに、教師が子ども一人一人にインタビューし、子どもと一しょに学習の過程を振り返り、次に努力するべきめあてを明確にしていくという方法です。

この「会議」では、次の点に留意しましょう。

- 1 会議は短く（5～7分程度で）しましょう
- 2 まず、子どもが自分の学習成果をどう考えているかを問きましょう
- 3 子どもに、学習のどこに問題があるか、発見させましょう
- 4 子どもが教師の提案を必ずしも受け入れる必要はないという自由な雰囲気をつくりましょう
- 5 会議の目的は、学習成果を改善することではなく子どもの自己評価力を高めることにあることを銘記しておきましょう

「会議」の中での教師からの問いや提案、評価を通して、子どもたちは、自分が探究している問題の価値や、自分のものの見方、考え方に気付き、よりよい探究に向かって自ら計画を修正しながら、目標の実現に向かっていくのです。「会議」は子ども一人一人にあった支援をしていくために有効な方法です。

見直してみましょう

英語科 (高) 英語を運用することの楽しさを味わわせる「タ スク (作業課題) を課した言語活動」

担当：藤村

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (平成11年12月) に、「コミュニケーションにおいては常に、言語が具体的な場面において、具体的な働きを果たすために使用される。したがって、実践的コミュニケーション能力の育成を重視する場合、言語の使用場面と働きを明確にとらえておく必要がある。」と記されています。つまり、どのような場面で、どのような働きで、どのような言語材料をもちいて言語活動を行うのが重要になってきます。

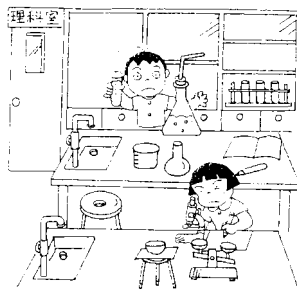
そこで、タスク (作業課題) を課した活動を工夫してみましょう。

タスクを課した活動とは、コミュニケーションを通してある目標 (課題) を達成 (解決) するための手段として英語をもちいる活動です。

たとえば、「Aさんに手紙を渡す」というタスクを課した場合、コミュニケーションの内容は、次の状況によって変わってきます。

- ① 生徒がAさんを知っているかどうか
 - ② 生徒がAさんがどこにいるかを知っているかどうか
 - ③ 聴かれた相手が①②について知っているかどうか
- Aさんを知っている場合は、Aさんがどこにいるか知っているのであれば何も言わずにAさんのところへ行くでしょうし、知らなければ“Where is A?” “Where can I find A?” など、いろいろな表現でAさんがどこにいるのか知ろうとするでしょう。Aさんを知らない場合は、“Who is A?” “What does A look like?” など、まず、Aさんについて知ろうとするでしょう。あるいは、Aさんがいる場所に行って直接“Are you A?” “Who is A?” “What’s your name?” となるかもしれません。もしかしたら、Aさんを知っている誰かに、自分の代わりに手紙を渡してくれるよう頼むかもしれません。
- Aさんに手紙を渡すという課題を解決するために、生徒は自分や相手の状況を考えながら、自分の知っている言語材料を駆使し、言語活動を行います。課題解決の方法はオープン・エンドなので、与えられたタスクに興味をもてれば、生徒は一生懸命英語を使って課題を解決しようとするでしょう。

生徒の興味を刺激するようなタスクを課した言語活動を見直してみましょう。



活用してみましょう

理科 (小)

動物の糞便を教材とした授業づくり

担当：板敷

新学習指導要領の「生物とその環境」では、その内容の中に、「食べ物が消化、吸収、排出される」というものがあります。この内容を考える教材として動物の糞便を取り上げてはどうでしょうか。

人間を含め、すべての生物が排泄をします。その糞便を観察することによって、その生物の体のつくりや働き、その生物の住環境等がみえてきます。それらのことを通して、生物が生命を維持していくためには、まわりの環境とのかかわりから考えなければいけないことに考えが広がっていきます。さらに、生命を尊重する態度を育てることにもつながります。

導入の教材としてパンダやコアラの糞便が効果的です。例えば、パンダの糞便は、その食性から、とても糞便には見えないような形やかおりです。それゆえに、学習への興味・関心を高めることができると考えます。

糞便の標本づくりでは、まず、風通しのよい所で1～2ヶ月間くらいかけて十分乾燥させます。その後、外側にニスや塗料を塗って固めて完成です。子どもたちに提示するときは、チャック付きの透明ビニルパックなどに入れます。また、子どもたちに直接触れさせたいときは、標本の外側にアクリル樹脂を塗って全体をコーティングします。樹脂が中まで染みとおり、本物と同じような重量感がでてきます。

糞便の教材化は、単に理科の学習だけにとどまらず、「総合的な学習の時間」における環境や国際理解など今日的な教育課題への活用も期待できます。



パンダの糞 (パンダやコアラの糞の入手先等の問い合わせは板敷まで)

取り入れてみましょう

生徒指導

ソーシャルスキル・トレーニングで子ども同士の人間関係づくりを

担当：三原

授業中、「先生、もう一度言ってください」「え、何するん？」など、説明したにもかかわらず、何度も尋ねてくる子どもはいませんか。もちろん教師の説明、質問の仕方にも原因があるかも知れませんが、子どもたちにも「人の話を聞く」という力をもっと身につけさせたいところです。

そこで、ソーシャルスキル・トレーニングを取り入れてみてはどうでしょうか。ソーシャルスキルとは、「集団の中で円滑な人間関係をつくるために必要な技術」のことです。

ソーシャルスキルの主なもの

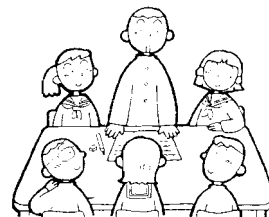
- あいさつ
- 自分の思いを表現する
- 人の話を聞く
- 人に質問する
- 人に何かを頼む
- うまく断れる
- 援助する
- 他者と協力する
- など

ここでは「人の話を聞く」ということでの具体的な取り組み例を紹介します。

『新聞記者になろうゲーム』

〔方法〕

- ① 5～6人のグループをつくる。
- ② テレビのニュースを録画しておいて、子どもに見せる。
- ③ グループ内で、重点的に聞き取る内容について分担させる(日時、場所、人物、事件の概要など)。
- ④ 聞き取ったことについて、グループ内で話し合わせ、概要をまとめさせる。
- ⑤ 教師が、「この事件は、どこでおきたのでしょうか？」など、いくつか質問して、答えられた数だけポイントを与える。



このような取り組みによって、人の話を正しく聞く姿勢が育っていけば、授業中の聞く態度や、子ども同士の人間関係づくりにおいても良い変化が見られるでしょう。

【参考文献】

國分康孝・小林正幸・相川 充「ソーシャルスキル教育で学校が変わる」小学校 1999 図書文化

研究協力員・研究協力校

教育センターの指導主事が前掲（P.4）のような教育研究を進めるに当たり、次の先生方または学校に研究の協力をお願いしています。

平成12年度 研究協力員

研究領域 (担当者)	研究協力員名	所属校・園
学習指導 三原 裕隆 尾形 慎治 藤村 和彦	榎野 純 西原 典子 藤本 文恵	幟町小学校 千田小学校 深川小学校
生徒指導 砂原文 男 名和原 恵理 首藤 龍麿	溝上 正人 久松 ひとみ 林 宗男 河田 優子	緑井小学校 吉島小学校 亀山中学校 口浦中学校

平成12年度 研究協力校

研究領域 (担当者)	研究協力校	研究推進 代表者名
学習指導 木村 正信 森下 幸子 前田 憲壮	矢野南小学校	古澤 恵
教育課題 板敷 憲政 松浦 俊雄 住吉 磨	似鳥小学校 可部南小学校 中広中学校 長東中学校	川口 大輔 愛甲 良文 栗田 裕司 香川 豊志
学校経営 吉竹 邦昭 永岡 敏彦	(4～9月) 江波小学校 (10～3月) 五日市中央小学校	石原 洋 山下 美智子

教員長期研修生 (平成12年10月～平成13年3月)

本年度後期は次の8名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- 障害児教育：西田 由香 (可部南小学校)
- 情報教育：蒲生 篤夫 (安北小学校)
- 理科教育：田村 浩一 (阿戸小学校)
- 総合的な学習：浅海富士夫 (江波小学校)
- 音楽科教育：佐藤真実子 (三入中学校)
- 特別活動：池本 和代 (東原中学校)
- 生徒指導：中元 功 (亀崎中学校)
- 幼稚園教育：南 直子 (口田幼稚園)

広島市立学校教育実践校・幼稚園教育実践園

(平成12年5月～平成13年3月)

本年度より教育センターでは、次の部門での研究を学校・園単位で支援しています。

校種	研究部門	学校・園名	研究推進 代表者名
小学校	総合的な学習	戸坂城山小学校	大畑 かおる 松 鳥 秀平
		矢野小学校	下原 正美 坊 田 裕紀子
		五日市中央小学校	占川 孝利 石 出 英之
中学校	総合的な学習	可部中学校	有森 康平 西 出 稔
幼稚園	幼稚園教育	長東幼稚園	佐藤 立恵

広島市立学校教育研究生

(平成12年7月～平成12年12月)

本年度は次の6名の先生方が、それぞれの部門で大学の指導教官や指導主事の支援を受けながら研究を進めておられます。

校種	研究部門	名前	所属校
小学校	体育科教育 教育相談 生徒指導	太田 知哉 藤本 法生 古谷 修一	安東小学校 美鈴が丘小学校 大塚小学校
		香川 直人 松元 俊一	清和中学校 大州中学校
高等学校	家庭科教育	地主 浩子	基町高等学校

編 集 後 記

2学期は、新教育課程へ向けての研究・実践も本格化する時期ではないでしょうか。皆様の教育実践の充実に、教育センターを活用していただきますようお願いいたします。

表紙絵 広島市立伴小学校長 松元 利夫
題字 広島市立宇品中学校長 西平 克宏

編集・発行／広島市教育センター
〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL:082)223-3563 FAX:082)223-3580
E-mail: center@hcecc.ed.jp (メールアドレスが新しくなりました)
広X 6-2000-056